

【作文小学生低学年の部】

- 特選** 横山小学校 2 年 菅原桃花「げんきにしてくれる水」
- 入選 加賀野小学校 2 年 佐々亜佐美「たいせつな水」
- 入選 新田小学校 3 年 高石娃李「水道水」
- 入選 西郷小学校 3 年 大西ひなた「水は大切なたから物」

【作文小学生高学年の部】

- 特選** 加賀野小学校 4 年 及川萌「大切な水」
- 入選 佐沼小学校 4 年 佐々木里桜「水のひみつ」
- 入選 石森小学校 5 年 鈴木理ヶ香「命の源！みずに感しゃ」

【作文中学生の部】

- 特選** 東和中学校 3 年 西城穂風「「水」への感謝を忘れずに」
- 入選 東和中学校 2 年 高井なお「きらめく「水」は命」
- 入選 中田中学校 2 年 渡邊ちなみ「水の重み」
- 入選 津山中学校 2 年 千葉琉美「いままでも、これからも」

げんきにしてくれる水

登米市立横山小学校二年 すかわら ももか

わたしは、じぶんの名ふだに学校のマーク
かっぴいていることに気がつきました。先生に
きいたら、「校しゅう」というそうです。

校しゅうには、せっけんのあわみたいなも
ようかあります。

「先生、どうしてこのようなもようかあるん
ですか。」

と先生に聞いてみたら、

「水のもようだよ。」

とおしえてもらいました。「よこ山小学校は
きれいな山と水にかこまれているから水のも
ようになつたのかな」とおもいました。

そういえば、2年生のみんなが町たんけん
へいったとき、

「よこ山ふどうそんにいるうぐいというさか
なは、きれいな水にしかすまないんだよ。」
というお話をおもいだしました。

「やっぱり、よこ山の水はきれいなんだね。」

そこで、

「水がきれいだとどんなことかいいのかな」
とかんがえてみました。

「そうか、水がきれいだと、みんなげんきに
なるんだね」

わたしは、このことに気がつきました。

水は、あついときにもと気もちよくなっ
て、げんきになります。つかれたときにのむ
と、すっきりしてげんきになります。花や木
もかれそうになたとき、水をあげるとげん

きになります。よこ山ふどうそんのうぐいも
きれいな水だから、げんきにおよんだとお
もいます。

そして、へわたしかけんきなのは、よこ山
のおいしい水を表内田のんでいるからだね
とおもいました。

わたしはげんきにしてくれる水をこれから
もたいせつにしていきたいとおもいます。そ
して、みんなもげんきになるといいなあとお
もいます。

たいせつな水

二年二組 ささあさみ

水は、人けんやしょくぶつ、どうぶつなど
生きているものぜんぶにひつようなものです。

わたしは、このまえお母さんにパソコンで
外国のことをおしえてもらいました。

外国では、水とうがなないので川の水をく
んで、うりやのふたにつかっているそうであ

てもその川で、せんたくやからたきあ
ていて、わたしはとてもきかないとおもいまし

た。

その水そのんだろと、おたはひょうきにな
ってしんでじまつて、おたがじーばいいる

エウです。

あんな水にこまっっている人は、せが
い六人に一人いるそうです。

わたしは、うりやにしている日本では、水どう
かあって、じゃ口もひねるときれいな水がで

きます。

外国の人たちは、まい日何回も水をくみに

いって、学校にいくじかんもないし、あそ
ぶじかんもなくてたいへんだとつらいました。
でも日本人のホラントでの人たちが外国
にいって、いそをついたり、水をきれいに
するけんきうをしたりいろいろなことをお
しえていました。

わたしは、お母さんに「水とちの水をとめ
なさい」と言われるときがありました。それが
うは、水をたいてついでにしたいです。

水道水

新田小 三年 たかいし ありり

わたしの家の水道は、三つあります。一つ目は、だいどころにある、中くらいの水道です。おいしい、お水が、のめます。

二つ目は、せんめんだいです。はみがきをするところでも、あります。

三つ目は、外にある、水道です。そこには、ちゃんと、コップがあります。コップは、赤と青の、二色のコップがあります。わたしは、

青のコップをつかっています。わたしは、

水道水、おいしいなあ。といます。山水の

ところから、川の水が、水道水になるんだと、

おとうさんがいいました。わたしは、そのことを、はじめてぎきました。わたしは、

田んぼの水かなあ。と思いました。

あたしのお家には、いど水もあります。それなので、でぎるだけ、いど水を、つかいた

いと思っています。

そのことが、水道水を、せつやくすること

に、つながっていると思うし、夏は、つめたくて、冬は、あたたかい水なのです。

おいしい水は、一番、おいしくて、朝から元気に、なったり、するのが、とても、うれしいです。水道水は、山水からつくられて、いるから、あまり、木を、きらないように、しておきたいです。

あたしに、とっては、水道水が、一番大好きです。

水道水は、人間にとって、命の水です。

水は大切なことから物

豊栄市立西郷小学校

三年

大西

ひなた

わたしは、水はとても大切なことから物だと思
います。そのわけは、いろいろなところで使
われているからです。

学校では、毎日のように、のんだり、手を
あらったり、うがいをしたりして水道の水を
使っています。トイレに行ったり、たたくこ
人の水をながしています。これから暑くなっ
てくると、プールにも入ります。冬でも、お

せよぼうのため、うがいをしたり、手をあら
うたりします。

家でも、台所やトイレ、お風呂などで、た
くさん水を使っています。妹はまだ赤ちゃん
なので、ミルクやお茶を作るのにとくにき
いなお水がほしいです。

わたしがお風呂に入るとき、大きなじし
んがありました。水道の水は、ちよびちよ
か出なかつたので、バットバトルに入った水
を少しずつ使っていました。トイレが一番た

いへんでした。水が少ししか使えないので、
一人ずつ流さないので、みんなの分をためてか
らながしていました。あの時のことを思い出
すと、水は本とうに大切なたから物だなあと
思います。

わたしがいつも心がけていることが一つあ
ります。それは、おふろのシャワーです。ツ
ヤワーを出しっぱなしにすると、水もお金も
もったいないので、使い終わったらすぐに止め
るようにしています。これからも、水を大切
に使うていきたいです。

大切な水

四年 及川 萌

「水が出る、ていいな。幸せだな。」

あせをかくほどの暑さの中、コップの水を飲みほすたびに私はいつもそう思います。このように思うようになったのは二つ理由があります。

まず一つは、三年前の震災で、数日間ではあつたけど自由に水を使えない生活をしたことです。私の家では日頃から風呂の残り湯

は、新しいお湯を入れるまでは残して洗濯や掃除に使っています。これはお母さんが子どもの時から「残り湯の温度は洗濯にちょうど良いし、火事が起きてもすぐに水を消せるから」と言われてきたそうで、今もそれを実行しています。そしてそれが震災の時にはトイレを流すのに使ったり洗濯したり助かりました。でも、飲み水はいつまで断水が続くか分からず、買い置きのパットボトルの水だけでは心配なので、寒い中、支所の給水車に水を

もらいに行きました。このような生活はた
た数日間だけだ。たのに、辛いのと不安な気
持ちだ。たので、とても長く感じました。こ
のときに水がすぐ手元にあるという幸せと安
心感を知った気がします。

そして二つ目は、三年生の時にユニセフに
ついて学ぶ機会がありました。世界には水が
出ない地域がたくさんあり、小さな子どもが
家から何キロも離れた場所まで水をくみに何
往復もしていること。ほった井戸は水がにこ

っていること。そのため病気になつて命を落
とす人がたくさんいることを知りました。そ
のことを知つて、歯みがきやシャワーなどの
時に水を出し、放しにしている自分のことが
とても恥ずかしくなりました。この時から、
水の使いすぎと無駄づかいをしないようにと
心がけるようになりました。

小さなことであつても一人一人が水を大切
にしようと思う気持ちが大切だと思ひ
ます。ただ、日本はいろいろなことが発展し

て、恵まれて幸せな国であるから、その無駄づかいに怒りを感じることもあります。それはショッピングセンターや公共施設のトイレを利用した時です。便座から少しでも動くと自動的に何度も流れます。手を洗う時には、ほんの少しの水で良いときでも、かざしただけで、ジャーと大量に出ます。必要ない時でもセンサーが反応して勝手に水が流れ出ます。なんて無駄なんだろう。

毎回のよつに感じることです。世界には一滴のきれいな水を手に入れるために大変な思いをしている人たちがたくさんいるのに・・・。水は貴重な資源です。そしてそれは限りがあるものです。人間や動物、植物、生物は水がなければ生きていけません。人間は一週間水分をとらなければ死んでしまうそうです。それだけ水は大切なものなのです。もちろん料理、洗濯、そうじなど生活するためにも必要です。震災の時のように水が出ないことでの、不便で不安な日々を想像するだけでも涙

が出そうになります。そして、じゃ、口をひねるだけで安全でおいしい水が簡単に手に入るといふことはとても幸せなことだと思います。だからこそ、水と、その水を私たちが安心して使えるように働いてくれている人に感謝の気持ちを持たなくてはいけないと思います。地球のどこでも安全でおいしい水が手に入れられればいいと願います。そのために私たちのような子どもが、すぐに何かできるわけではありませんが、生命を守るための大切な水を一人一人が無駄づかいせず、感謝して使うという気持ちを持つことが一番大切だと思います。

佐佐木里桜

水
だ。
夏
の
暑
い
日
は
た
く
サ
人
水
を
飲
む。
冬
の

出	て	き	た	あ	け	じ	か	な	い	。	井	は	水	道	管	が	な	か	。
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

人でいたコプはなかた。手で水を飲ん

い	ろ	不	便	だ	っ	た	の	だ	ろ	う	。	水	道	管	の	水	は	日	本
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

学	校
に	
は	
い	
っ	
は	°
い	
あ	
る	。
た	
か	
ら	、
た	
く	
±	
ん	
の	

水
は
い
い
か
キ
や
☒
エ
で
使
う
絵
の
具
の
バ
ケ
ツ
に

普通はもしかしたら仲のいい友達なのかもし

[illegible][illegible]

水道管なんてたまたま水がでるだけじゃない。水道管は
 なんて思っている人は大まちがい。水道管は
 水がでてくるだけではなく、人の大切な一ツ
 だけの命のもとなのだ。もちろんおいし
 み。みんなの命をささえている。私もそうなりた
 いな。私は水道が好きだ。だから、おいし
 水を出してくるし、ハイミガキをするときも
 きれいな水でゴシゴシできるし、だから
 私は水道が好きだ。きこみ人もそうだ
 と思う。水がないと大事な一ツだけの命をお
 にくすことになるかもしれない。だから水や水
 道管にかんしゃしないといけない。きこみ
 人なかんしゃしていると思う。私はお礼がし
 たい。でも、何をすればいいかな。たくさん
 水を飲む。ちがうな。かんしゃをずっとし
 る。もつとちがう。あ、いいこと考えた。水
 道管から出る水をおいしく飲めばいいんだ。
 そうすれば、いいお礼になるかもしれない。
 よし、次に水道の水を飲む時においしく水を
 飲もう。あ、いいこと。水道の水は大活

[illegible]

命の源、水に感しゃ

鈴木 理及香

水は、おいしく、で、いろんな物に変わ

て、おもしろいと思う。

運動したあ、水をもむと、体が熱くて、心

ぞうがバクバクしてたのがおさまる。やっぱ

り、命の源だと思う。温めて、お湯にすれば

お茶になったり、汗を流す、お風呂のお湯に

なったり、氷になれば、かき氷にしたときや

りがおきたときに、ひやせる。

人は生きていくのに、最低でも空気（き

んそ）と、水が必要だと思う。それに衣食住

が合わさって、安全に生活している。

だから、かわきつていて、水が出ない国

の人たちが、がんばって井戸をほったり、遠

くの湖まで、水をくみに入っでいたりするの

を、テレビで見たときとか、水をきれいにす

るのがやってなくて、ミネラルウォーターを

買わなくてはいけな国があるのを知ると、

いつも、日本は、すぐに、安全な水がのめて

ゆうふくな国だなあと思つた。

でも、水は、つめたくなつてこおりになる

とかたいしつめたいから、つらとかをなげ

るのば、あぶないと思ひうし、海で、泳いだり

するの、ふざけてると、命にかかわること

になつてしまふ。けれど、ふつうにつかて

いて、あぶないことに使おうとしなければ、

みんなを助けられる、すばらしい水。

これから、水のありがたみを感じながら、

たくさん水をのんで、元気に生活しようよ、

思う。水は、とってもおいしいから、夏には、

ごくごくのむと思う。暑い夏は、水分ほき

うのためにも、たくさんのおむことにしようか

なあと思っている。

持	だ	た	こ	き	ぐ	か	が	ぐ		す	に	部	気	そ	私	朝			
し	け	が	と	ま	に	特	た	に	私	つ	飲	の	持	し	の	、	喉	登	
続	飲	あ	で	す	体	別	く	お	は	き	む	活	ち	て	体	起	が	米	
け	む	り	す	。こ	内	な	、	い	今	り	水	動	に	、	の	き	渴	市	
、	こ	ま	が	れ	に	こ	嬉	し	で	さ	も	を	さ	「	細	た	いた	立	
推	と	せん	、	は	取	と	し	い	も	せ	、	終	せ	今	胞	と	私	東	
進	が	°	今	本	入	が	く	水	水	、	え	て	く	日	は	き	を	和	
し	で	安	の	当	れ	な	感	が	道	ほ	、	、	れ	も	ど	に	水	中	
て	き	心	私	に	る	け	じ	飲	の	つ	癒	自	の	元	ん	飲	道	学	
く	る	し	は	普	水	れ	て	め	蛇	と	す	転	で	気	だ	水	校	校	
だ	°	て	特	通	を	ば	い	る	口	さ	か	車	す	に	コ	が	三	三	
さ	こ	飲	別	で	摂	い	ま	こ	を	せ	の	で	の	頑	ッ	潤	年	年	
っ	の	め	貴	、	取	つ	す	を	ひ	て	よう	。ま	す	張	プ	し	西	西	
て	状	る	重	当	す	ど	°	、	ね	く	に	た	。ま	ろ	一	て	城	城	
い	態	水	に	た	る	こ	日	心	る	れ	心	に	！	う	杯	く			
る	を	を	思	たり	こと	でも	本	から	だけ	ま	や	帰	「	！	の	れ			
人	守	好	え	前	が	、	で	あ	、	す	身	つ	と	い	水	ま			
々	り	き	し	の	で	す	何	り	す		体	た	ニ	う	で	す	穂		
が	、	な	か								を	と	ス		、	°	風		
い	維											き							

に	て	は	り		る	強	く	み	ご		し	戻	ん	す		て	が	皆	て
必	き	と	ま	し	の	い	な	な	し	当	流	る	詰	。あ	私	は	安	さ	下
要	た	と	し	ら	？	ら	が	が	ま	時	さ	こ	ま	。あ	は	い	全	ん	さ
最	水	も	た	く	ー	れ	ら	ら	し	小	れ	と	っ	の	、	け	に	の	い
小	を	貴	。そ	は	い	ま	、	、	た	学	、	は	た	日	東	な	保	気	ま
限	少	重	こ	、	う	し	石	困	。ペ	生	全	で	家	から	日	い	障	持	す
の	し	で	も	巻	不	た	の	惑	ット	だ	壊	き	、	、	本	思	さ	ち	。水
使	ず	し	被	親	安	こ	の	し	ボ	っ	し	ま	生	も	大	っ	れ	と	道
用	つ	た	災	戚	ば	れ	親	な	ト	た	て	せ	ま	う	震	て	い	仕	の
と	い	。や	地	の	か	こ	家	が	ル	私	し	ん	れ	二	災	い	る	事	先
使	ろ	つ	で	家	り	か	の	ら	の	は	ま	育	つ	度	で	ま	こ	。私	に
い	ん	と	あ	に	が	ら	水	い	水	、	っ	た	た	と	被	す	と	は	あ
方	な	の	っ	お	募	い	を	ん	を	体	た	懐	思	思	害		へ	、	る
の	こ	思	た	世	り	っ	少	な	し	育	か	し	い	い	を		の	ラ	水
工	と	い	た	話	ま	た	し	場	ず	館	し	い	自	出	受		感	イ	道
夫	に	で	め	に	し	い	づ	面	つ	で	か	宅	が	が	け		謝	フ	事
が	使	も	、	な	た	ど	飲	で	飲	数	ら	に	た	た	一		を	ラ	業
求	う	ら	水		。こ	う		我		日	で	押	く	く	人		忘	イ	所
め	た	っ				な		慢		を			さ	さ	で		れ	ン	の
ら	め									過									

の	そ	が	水	が	景	私	て	度	と	と	水		は	ざ	健	た	し	水	れ
実	の	あ	を	あ	に	た	、	が	も	は	°	配	、	ま	康	め	た	の	ま
家	後	る	飲	つ	は	ち	即	素	あ	少	海	給	飲	な	と	に	°	役	し
に	、	か	め	た	、	が	し	晴	り	し	外	の	料	行	安	使	目	割	た
お	私	ら	る	こ	水	す	て	ら	ま	異	の	水	水	程	全	う	の	は	°
世	は	こ	の	と	道	ぐ	い	し	し	なり	水	と	に	を	に	水	前	、	食
話	親	そ	は	を	局	に	た	く	た	、	で	各	つ	経	結	は	に	計	事
に	戚	だ	、	知	の	水	か	日	を	黄色	炊	国	く	な	び	海	り	用	・
な	の	と	水	り	皆	道	を	本	目	っ	飯	か	い	け	つ	が	知	風	呂
り	家	痛	道	ま	さん	から	の	の	の	ぽ	し	ら	け	な	く	あ	れ	・	洗
ま	か	感	事	し	の	利	当	風	透	い	時	か	い	い	水	っ	な	ほ	濯
し	ら	し	業	た	弛	用	たり	土	明	ご	は	の	た	なる	と	も	い	ど	・
た	登	ま	所	°	ま	し	に	や	な	飯	、	れ	め	ため	を	、	生	大	ト
°	米	した	の	か	ぬ	いた	しま	生	水	にな	い	た	に	す	施	活	活	き	イ
転	市	°	皆	け	努	た	まし	活	は	った	の	で	°	°	し	して	い	い	レ
校	に		さん	が	力	水の	した	に	い	た	白	す			、	人	く	もの	な
を	あ		の	え	や	の	た	合	か	こ	米			私	さ	間		で	ど
し	る		支	の	営	背	°	っ	純						ま	の			
て	親		え	い	み			い											

か	使	立	と	ら	っ	「	を	の	り	で	私	私		落	の	ほ	富	で	新
が	い	っ	い	い	て	食	心	一	ま	大	の	の	震	ち	生	と	に	は	た
よ	ま	こ	う	で	ね	器	掛	つ	し	切	家	家	災	着	活	ん	使	、	な
り	す	と	会	充	「	を	け	で	た	な	族	族	後	け	は	ど	え	あ	環
一	が	も	話	分	洗	洗	、	す	。生	も	は	だ	の	、	、	な	ま	ま	境
層	、	あ	を	か	剤	う	無	。だ	活	の	、	け	た	安	安	く	し	り	の
水	私	り	弾	な	は	と	駄	か	を	を	辛	で	び	定	し	な	た	震	中
の	た	ま	ま	。洗	多	き	を	ら	支	身	い	生	重	た	リ	、	。生	災	で
恩	ち	す	せ	い	す	は	無	こ	え	に	経	活	なる	た	ズ	時	活	の	ス
恵	が	。一	な	流	ぎ	、少	く	そ	る	し	験	で	転	こ	ム	間	用	影	タ
を	節	日	が	し	な	し	す	、	水	み	を	き	居	と	を	が	の	響	ー
受	水	に	、	も	い	ず	よ	家	も	て	通	る	を	を	覚	経	水	は	ト
け	し	た	親	す	よう	つ	う	族	実	貴	し	よう	経	え	戻	つ	に	な	を
ら	た	く	子	ぐ	に	水	に	み	に	く	て	に	て	て	し	に	対	く	し
れ	分	さん	で	だ	。こ	を	努	ん	重	思	生	なり	、	い	ま	つ	す	、	ま
た	で	の	流	し	れ	流	め	な	要	う	き	り	現	ま	し	れ	心	水	し
な	、	水	し	ね	。こ	し	て	で	な	よう	て	ま	在	す	た	、	配	道	た
ら	他	を	場	。」	れ	て	い	節	も	に	く	し	は	。落	の	私	は	も	。そ
良	誰		に	等	く	洗	ます	水	の	な	上	た	、		た		豊	こ	こ
い																			

心	継	要	も	を	ん	生	る	い	の		こ	シ	過	て	れ		り	っ	と
で	続	が	備	確	な	命	か	く	人	だ	れ	ス	酷	い	ず	世	あ	て	思
、	し	あ	え	保	で	の	わ	べ	が	か	は	テ	な	る	に	界	る	も	い
小	し	り	る	し	共	危	か	き	水	ら	、	ム	環	人	水	に	水	、	ま
さ	よ	ま	ス	な	有	機	り	な	の	こ	本	の	境	々	不	は	も	多	す
な	う	す	ク	が	し	を	ま	の	一	そ	当	素	も	が	足	、	も	く	。
努	と	。今	ラ	ら	て	乗	せん	で	滴	、	に	晴	あ	い	に	日	っ	の	我
力	決	、	ム	、	守	り	。	す	一	水	幸	ら	る	ま	悩	本	と	人	が
を	め	私	を	上	り	越	万	。	滴	の	せ	し	中	。	み	の	有	々	家
積	て	は	、	手	続	え	が	想	の	大	な	さ	で	。	、	効	効	が	の
み	い	自	日	に	け	る	一	定	価	切	こ	を	、	地	喘	に	に	協	節
上	ま	分	本	利	て	際	の	外	を	さ	と	受	球	ぎ	な	水	使	力	水
げ	す	が	中	用	い	の	こ	の	知	を	で	け	上	な	が	道	え	す	は
て	私	で	に	し	く	糧	と	こ	っ	伝	。	活	に	ら	ら	事	る	れ	わ
い	なり	き	広	て	べ	と	な	は	て	え		用	は	懸	業	は	ば	ず	か
き	に	る	げ	災	き	る	水	い	利	合		で	そ	命	が	ず	き	な	量
ま	感	こ	て	害	です	を	を	つ	用	い		き	の	に	整	で	つ	と	で
す	謝	と	い	な	。	み	て	起	し	、		ま	水	生	備	す	と	限	あ
。	の	を	必	に	水			こ	て	山		す	道	き	さ				

																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					</
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

は	頑	張	っ	て	い	る	と	思	い	ま	す	。	数	年	が	経	過	し	て	し	て	い	こ	う	と	し	ま	し	た	。	私	の	家	で	は	、	祖	父	が
た	。	私	は	嬉	し	く	て	、	準	備	し	て	行	っ	た	入	れ	物	に	く	ぼ	み	か	ら	地	層	を	滑	る	よ	う	に	水	が	出	て	い	ま	し
山	の	斜	面	の	木	々	の	根	に	茂	み	が	あ	り	、	そ	の	奥	の	山	の	奥	に	あ	る	湧	き	水	が	出	る	と	こ	ろ	を	知	っ	て	い
た	の	で	、	私	も	そ	こ	に	水	を	汲	み	に	行	き	ま	し	た	。	た	の	で	、	私	も	そ	こ	に	水	を	汲	み	に	行	き	ま	し	た	。
た	く	さ	ん	水	を	汲	ん	で	何	度	も	運	ぶ	の	を	手	伝	い	ま	し	た	。	私	た	ち	の	地	域	は	、	こ	の	湧	き	水	や	給	水	車
の	水	な	ど	を	利	用	し	、	し	ば	ら	く	す	る	と	水	道	が	い	つ	も	の	よ	う	に	使	用	で	き	る	よ	う	に	な	り	ま	し	た	。
し	か	し	、	水	道	が	使	え	な	い	不	便	さ	を	、	私	は	こ	の	と	き	の	体	験	か	ら	つ	く	づ	く	思	い	ま	し	た	。	水	の	大
切	さ	も	考	え	ず	、	必	要	以	上	、	浴	び	る	よ	う	に	使	用	し	て	い	た	頃	の	自	分	を	反	省	し	ま	し	た	。				
	被	災	地	で	は	、	八	月	頃	ま	で	水	道	が	使	え	な	か	っ																				
た	場	所	も	あ	っ	た	と	聞	き	ま	し	た	。	猛	暑	の	夏	に	、	人	間	の	身	体	を	維	持	し	て	い	る	水	分	の	補	給	が	不	十
分	で	あ	れ	ば	、	命	の	危	険	に	さ	ら	さ	れ	る	こ	と	も	あ	る	の	で	す	。	復	興	に	力	を	入	れ	て	被	災	地	の	皆	さ	ん

ま	で	レ	雨	直	被		う	も	の	ッ	そ	か		だ	の	て	す	し	も
し	、	ビ	水	接	害	ま	に	あ	利	プ	の	し	さ	と	基	い	。そ	に	、
た	健	の	を	川	を	た	利	り	用	一	ま	、	て	感	盤	く	その	な	居
。	康	映	そ	や	受	、	用	ま	で	杯	ま	世	じ	と	と	皆	の	つ	住
	に	像	の	貯	け	ア	で	す	し	の	飲	界	ま	な	る	さん	水	て	地
	害	で	ま	水	た	フ	き	。水	な	水	料	の	し	命	の	にと	パイ	配	の
	を	見	ま	池	地	リ	な	の	け	で	水	他	た	の	水道	っ	プ	管	整
	及	た	利	な	ど	カ	い	国	れ	洗	と	の	も	水	水	て	ライ	さ	備
	ぼ	の	し	ど	で	の	国	も	ば	顔	し	国	あ	が	の	、何	ン	れ	が
	す	で	たり	に	は	飢	あ	あ	な	や	て	で	る	豊	パイ	より	は	て	進
	こ	す	し	水	、	餓	の	る	ら	歯	い	は	で	富	の	も	、	い	ま
	と	が	て	を	水道	地	で	す	な	磨	ま	、	場	な	パイ	所	被	所	ず
	が	あ	い	汲	設	帯	す	。水	か	き	っ	水	も	国	プ	災	災	あ	、
	容	ま	まし	み	備	や	。水	。水	っ	、	た	道	重	国	ライ	地	地	る	水
	易	り	した	に行	も	戦	。水	。水	た	身	り	水	要	で	ン	で	生	そ	道
	に	に	。テ	行っ	悲	争	。水	。水	る	体	、	の	生	な	な	活	う	う	管
	想	も		たり	惨	で	。水	。水	場	を	コ	水	活	の			き	で	が
	像			、		大	。水	。水	所	拭		を					出		む
	で					変	。水	。水		く									き
	き					な	。水	。水		等									出

で	良	そ	度	や	化	そ	過	い	適	い	さ	上	い	安	調	学	場	す	
す	い	し	も	土	ア	の	・	ま	合	ま	ん	川	る	全	べ	ん	に	。	そ
。	水	て	越	な	ル	ス	消	す	し	す	の	が	こ	で	て	だ	見	私	れ
透	へ	塩	し	ど	ミ	テ	毒	。	た	。	お	流	と	美	み	こ	学	は	に
明	と	素	て	を	ニ	ッ	な	水	水	水	か	れ	が	し	ま	と	に	、	比
な	生	を	き	沈	ウ	プ	ど	を	が	道	げ	て	わ	い	し	を	行	小	べ
水	ま	い	れ	め	ム	も	の	き	私	法	で	い	か	水	た	思	っ	学	て
の	れ	れて	い	たり	等	決	浄	れ	た	に	、	ま	り	道	。	い	た	校	日
輝	変	消毒	し	、	凝	し	水	い	ち	基	有	す	ま	水	豊	出	こ	の	本
き	わ	し	たり	砂	集	て	処	に	の	づ	効	が	し	無	富	し	と	時	は
に	ら	、	し	や	剤	単	理	す	生	く	に	、	た	駄	な	な	が	に	、
は	せ	私	して	砂	を	純	を	た	活	水	利	そ	。	な	水	が	あ	登	本
、	て	た	いる	利	用	で	行	め	の	質	用	の	私	く	に	ら	り	米	当
水	下	ち	の	の	い	は	っ	に	場	基	さ	水	た	上	限	さ	ま	市	に
道	さ	の	で	層	て	な	て	、	に	準	れ	も	ち	手	り	ら	し	の	恵
事	っ	健	す	で	細	く	い	沈	届	に	て	水	の	に	が	に	た	保	ま
業	て	康	。	水	か	、	の	澱	け	そ	い	道	市	使	あ	自	。	呂	れ
所	い	に		を	い	ポ	で	・	ら	っ	と	局	に	っ	り	分	そ	羽	て
の	の			何	砂	リ	す	濾	れ	て	思	の	は	て	ま	で	こ	浄	い
皆						塩			て			皆	北		す	も	で	水	ま

さ	い	い	す	ろ	す	の	感	の	ま	す	。異	臭	水	の	発	生	や	ク	リ	プ	ト	ス	ポ	リ	ジ	ウ	ム	に	徹	底	し	て	検	査	を	し	て	下	さ	っ	て	い	た	の	で	す	。私	は	、私	た	ち	市	民	に	飲	料	水	を	供	給	し	て	下	さ	る	皆	さ	ん	の	支	え	に	、心	か	ら	感	謝	し	た	い	と	思	い	ま	す	そ	し	て	、水	が	当	た	り	前	に	使	え	る	と	思	っ	て	無	駄	に	使	用	し	た	り	し	な	い	よ	う	に	、節	水	を	心	掛	け	て	い	き	た	い	と	思	い	ま	す	。また	、私	の	家	の	近	く	に	あ	る	原	水	・	浄	水	の	水	質	管	理	や	放	射	性	物	質	の	放	射	性	セ	シ	ウ	ム	を	定	期	的	に	測	定	し	て	も	ら	っ	て	い	る	こ	と	も	忘	れ	ず	に	、自	然	や	周	囲	の	営	み	に	注	意	を	し	て	い	き	ま	す	。今	後	も	さ	ら	に	水	道	水	に	関	心	を	も	ち	、学	ん	で	い	き	た	い	と	思	い	ま	す	。私	た	ち	の	命	を	守	っ	て	下	さ	っ	て	い	る	水	道	局	の	皆	さ	ん	に	、少	し	で	も	協	力	で	き	る	一	市	民	で	あ	り	た	い	と	思	い	ま	す	。
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	-----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

[illegible]

冷	ま	し	て	く	れ	て	い	る	と	い	う	事	な	の	だ	。	部	活	動
で	ど	ん	な	に	暑	く	て	も	、	窓	を	開	け	た	り	す	る	こ	と
に	よ	っ	て	風	が	入	り	と	て	も	涼	し	く	感	じ	る	時	が	あ
っ	た	、	あ	れ	は	風	が	熱	を	冷	ま	し	て	く	れ	て	い	る	か
ら	だ	っ	た	の	か	と	、	と	て	も	驚	い	た	。					
	最	後	の	体	温	の	調	節	は	、	人	は	体	温	を	一	定	に	保
て	る	よ	う	に	汗	を	か	い	て	熱	を	逃	が	し	て	い	る	と	い
う	こ	と	だ	。															
	っ	ま	り	、	汗	を	か	く	と	い	う	事	は	熱	を	逃	が	し	た
り	冷	ま	し	た	り	し	て	い	る	と	い	う	こ	と	な	の	だ	。	
	そ	し	て	も	う	一	つ	、	大	事	な	こ	と	が	あ	る	。		
	そ	れ	は	「	水	分	補	給	」	だ	。								
	汗	は	水	分	、	っ	ま	り	水	が	無	い	と	か	く	こ	と	が	で
き	な	い	。	水	分	補	給	と	は	、	暑	か	っ	た	り	し	て	喉	が
渴	く	か	ら	と	い	う	他	に	、	体	の	中	の	水	分	を	補	給	す
る	と	い	う	重	要	な	役	目	が	あ	る	わ	け	だ	。				
	こ	の	四	つ	の	こ	と	か	ら	、	私	は	今	生	き	て	い	る	と
い	う	事	に	は	「	水	」	が	大	き	く	関	わ	っ	て	い	る	と	い
う	事	に	気	づ	い	た	の	だ	。										
授	業	の	余	談	で	、	先	生	が	「	駅	伝	や	マ	ラ	ソ	ン	で	

自	己	新	記	録	や	大	会	新	記	録	が	出	る	の	は	、	こ	う	い
う	条	件	が	揃	っ	た	か	ら	か	も	し	れ	な	い	ね	。」	と	言	っ
て	い	た	け	ど	な	る	ほ	ど	な	と	感	心	し	た	。	今	ま	で	記
録	を	残	し	て	き	た	選	手	た	ち	に	も	「	水	」	は	関	わ	っ
て	い	る	ん	だ	と	思	っ	た	。										
	そ	れ	か	ら	も	う	一	つ	、	学	ん	だ	こ	と	が	あ	る	。	
	そ	れ	は	去	年	の	十	二	月	の	事	だ	。	私	の	祖	父	が	倒
れ	て	入	院	す	る	こ	と	に	な	っ	た	時	、	祖	父	の	家	は	田
ん	ぼ	を	や	っ	て	い	て	稲	を	育	て	い	る	の	だ	が	、	祖	
父	が	倒	れ	て	し	ま	っ	た	た	め	、	祖	母	一	人	で	は	で	き
な	い	し	、	来	年	は	だ	め	か	も	し	れ	な	い	と	い	う	こ	と
に	な	っ	た	の	だ	。	祖	父	の	容	態	は	、	あ	ま	り	良	く	な
ら	ず	退	院	は	い	っ	に	な	る	か	分	か	ら	な	い	と	い	う	事
で	、	ま	す	ま	す	稲	を	育	て	る	の	は	で	き	な	く	な	っ	て
い	っ	た	。																
	そ	ん	な	時	、	私	の	家	の	近	く	の	農	家	の	方	が	っ	祖
父	の	家	の	田	ん	ぼ	も	一	緒	に	や	っ	て	も	い	い	と	い	っ
て	く	れ	て	、	や	っ	と	再	び	米	を	作	る	事	が	で	き	る	よ
う	に	な	っ	た	の	だ	。												
私	が	何	気	な	く	い	っ	も	食	べ	て	い	る	米	は	、	祖	父	

や	地	域	の	方	々	が	、	冷	夏	で	苦	勞	し	た	り	、	あ	ま	り	
実	ら	な	な	か	つ	た	り	、	作	れ	な	く	な	つ	て	し	ま	つ	た	り
雨	が	降	ら	す	育	た	な	か	つ	た	り	し	て	大	変	な	思	い	と	
苦	勞	を	し	た	末	に	、	み	ん	な	の	家	の	食	卓	に	並	ぶ	こ	
と	を	忘	れ	て	は	い	け	な	い	の	だ	と	思	う	。					
あ	る	時	、	祖	父	が	言	つ	て	い	た	、	「	稻	を	育	て	る	と	
き	に	田	ん	ぼ	に	張	る	水	は	用	水	路	な	ん	か	の	水	を	使	
つ	た	り	、	川	の	水	を	使	つ	た	り	し	て	い	る	ん	だ	よ	。	
た	だ	、	下	に	水	が	あ	る	だ	け	で	は	だ	め	で	、	時	々	上	
か	ら	も	雨	が	降	つ	て	く	れ	な	い	と	お	い	し	い	米	に	は	
な	ら	な	い	か	ら	ね	。	と	。											
こ	れ	は	田	ん	ぼ	に	限	つ	た	こ	と	で	は	な	く	、	畑	も		
そ	う	な	ん	だ	と	言	つ	て	い	た	。	前	に	母	が	、	雨	が	降	
つ	た	時	に	野	菜	が	伸	び	る	か	ら	良	か	つ	た	と	言	つ	て	
い	た	、	花	も	乾	い	て	い	る	と	開	か	な	い	け	ど	、	雨	が	
降	る	と	つ	ぼ	み	が	開	く	ら	し	い	。								
人	の	体	に	、	食	べ	る	も	の	、	花	な	ど	自	然	の	生	き		
物	こ	の	生	き	と	し	生	け	る	も	の	全	て	に	、	「	水	」	が	
関	わ	っ	て	い	る	。														
こ	の	よ	う	な	た	く	さ	ん	の	体	験	か	ら	、	「	水	」	は		

命の糧であり、私達にとつて一番身近で、一

番	大	切	な	存	在	な	の	だ	と	思	っ	て	い	る	。				
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--

そ	し	て	、	そ	の	水	を	私	た	ち	の	下	に	運	ん	で	く	れ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

る	水	道	が	大	切	な	存	在	で	あ	る	と	い	う	こ	と	を	、	た
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

く
さ
ん
の
人
に
知
っ
て
、
そ
し
て
気
づ
い
て
ほ
し
い

	—
	水
	レ
	は
	い
	つ
	で
	も
	私
	達
	の
	命
	を
	支
	え
	て
	く
	れ
	て

い	
る	
今	
ま	
で	
も	
そ	
し	
で	
こ	
れ	
か	
ら	
も	

「水の重み」

津山中学校

二年

千葉

琉美

蛇口をひねると、水が出てきます。

私達は、水が出るのをあたりまえのように

思い、使っています。

ですが、現在も、途上国では、水道がない

国が多く存在しています。

そのため、毎日自力で長距離を歩き、重い

水を家まで運ばなければなりません。

その労働のために学校へ行けない子供達も

たくさんいるそうです。

水は、実はあたりまえのようで最も、身近

に存在する大切な資源なのです。

三年前、東日本大震災がありました。「水

が出なくなる」なんて、誰が考えたでしょう

か。水道管が被害にあい、蛇口から水は出な

くなり、水のない生活をいられました。

しばらくして、やっと蛇口から水が出た時

のうれしさは今でも思い出されます。

その時、私は、何の不自由もなく水が使える

ることのありがたさを感じました。

もしも、突然、災害が起こり、蛇口から水が出なくなってしまうたら、どうなってしまうのでしょいか。大変な事態になることは、分かっているけれども、混乱してしまうでしょう。水は、たくさんので、使用、利用されています。います。

特に夏には、かき氷や打ち氷、エアコナなどで使う機会が増え、大幅に量も使うことになります。

他にも、お風呂や、床暖房、洗濯など、かぞえきれないほど、水が至る所で使われていて、それが出来なくなると考えると、不安やあせりでいっぱいになります。

災害が起きなかつたとしても、二千五十年には、三十億人以上が水の量と質に限界になつてしまうそうです。

もしも、本当に、そうなってしまうたら、それこそ、大変なことどころではなくなります。

トイレの時には、水がなく、お風呂にも入ることかできず、炊事もできなく、洗濯もすることができなくなるのです。

水は、人間の体に六十パーセントから、セ+パーセントふくまれています。水がなくなてしまったら、水を飲めません。体の中の水分がなくなてしまいます。

もちろん、水がなくなると、困ってしまうのは、人間だけではありません。

水がなくなると、植物や、動物も困ってし

まいます。

植物は、根から水を吸っています。水がな

くなると、かれはててしまいます。

そして、動物も、水がなくなると、うえて

いてしまいます。

水がいかに大切なのか分かってきます。

また、水の水質も問題になっていきます。

水があれば良いというわけではありません。

水が汚れていては、体に害が及ぶこともあります。

ます。

体に害のない、安全で、きれいで、おいしい

水が必要です。

そのためには、これから、水源になる河川

や、湖、沼などの、水質を改善していくとい

うことも大切になっ、てきます。

安心で安全なおいしい水を飲める、今が、

とても幸せなことだと気づかされました。

私達が、ふだん、蛇口をひねると出てくる

水の、一滴、一滴が、とても、重みがあるよう

に、感じてきます。

コップ一杯の水の中には、たくさんの方の

労力や、手間、時間がつまっています。

私達には、蛇口の水を出しっぱなしにしな

いということや、洗濯の時に、洗剤を多く使

いすぎないことなどの、簡単なことからでも

初めることができます。

いつ、災害が起こったり、水不足になっ、て

しまうかは誰にも分かりません。

しかし、今からでも少しずつ努力をしてい

くことで、もしもの場合にも、対応できるの

ではないでしょうか。

今、私達は、おいしくて、安心、安全な水を飲めること、蛇口から水が出てくることに感謝しなければなりません。

そして、あらゆる場面で、水のありがたさと重みを感じて、水を大切に使用していきたいと思っています。